

幼保一体化施設・加茂幼稚園が竣工



少子化や保育児の低年齢化など多様な保育ニーズに対応する保育所と幼稚園の一体化施設「雲南市立加茂幼稚園」が完成し、今年度から幼児教育・保育の一元化事業がスタートしました。

同施設は、旧加茂町から申請・国から認定を受けた「雲南市わんぱく特区」の計画によるもの。これまで幼稚園（文部科学省の管轄）と保育所（厚生労働省の管轄）は、管轄の違いから対象児童や保育時間、設置基準、保育料など運用の規制がありました。特別区の認定を受けることにより、



園児による合唱の披露もありました



これらの規制を緩和して事業が実施できます。

4月5日には加茂町宇治の園舎で定礎式と竣工式が行われ、速水市長が「225人の園児でスタートを切るわけですが、雲南市の子育て支援を推進する拠点として大いに活用されることを期待しています」とあいさつしました。

同施設は、建築面積2千807㎡、8億2千363万円をかけた建設され、多くの自然光が射し込む造りとなっているほか、乳児室・調乳室をはじめ一時預かり室、子育て支援室などを備えています。

雲南市体育協会発会式



は、市民の体力向上・健康増進にもつながると思います」と抱負を述べました。

なお、総会で雲南市体育協会の代表役員が次のとおり決まりました。

会長	佐藤 嘉夫(木次町)
	鶴原 達夫(大東町)
副会長	青木 幸正(加茂町)
	佐藤 孝吉(三刀屋町)
	堀江 博(吉田町)
	竹下 三郎(掛合町)
	土江 博昭

雲南市体育協会役員
(敬称略、()内は出身)



今回の発足により雲南市体育指導委員協議会の発会式も、4月7日に開かれています。



尾原ダムを中心とした地域活性化を...

尾原ダム「地域に開かれたダム整備計画」認定通知伝達式



の代表者や国、自治体関係者が原案を作成、昨年10月28日付けで旧木次町と旧仁多町から国土交通省に認定申請が行われていたものです。

伝達式では、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所の則松秀晴所長から速水市長と岩田一郎前仁多町長へ認定通知が手渡され、速水市長は「地域住民や国、県、関係自治体が一体となってダム湖周辺の地域振興に取り組みたい」と決意を述べました。今回認定された整備計画では、尾原ダムが完成する平成22年にあわせ、千mのボート競技施設やサイクリング施設など、ダム湖の特性を活かした周辺整備が行われることになっています。

3月23日、国土交通省から3月16日付けで認定を受けた尾原ダム「地域に開かれたダム整備計画」の認定通知伝達式が、木次町平田地内の尾原ダムPR館で行われました。

この整備計画は、平成14年1月に尾原ダムが国土交通省から「地域に開かれたダム」の指定を受けたことに伴い、島根県が主体となって地域

の安全を守るばかりでなく、ダム湖の周辺整備により交流人口の拡大や地域の活性化につながる施策として期待されています。

無火災に向け気持ち新たに

雲南市消防団任命式



平成17年度の雲南市消防団任命式が4月3日、大東中学校体育館で行われ、75人の団員が新たに任命されました。

式では、4月1日付けで新しく幹部に任命された団員と新入団員への任命書が高橋日出男団長からそれぞれの方面の代表者に手渡されました。

続いて高橋団長が「人命、財産を災害から守るといふ崇高な精神をもち、職務を遂行してください」と激励しました。



いきいき雲南



この時期、市内のあちこちで卒業式・入学式がありまして。児童・生徒の皆さんが次代を担う人材として逞しく成長することを願うばかりです。

親は子供を選んで産みません。子供も親を選んで産みません。だから、「子供は天からの授かりもの」ですし、「預かりもの」なのだと思います。

当然、預かりものは大切にしなければなりません。もとより自分の体は大切にしますが、それが天から預かったものであれば、なおのこと大事にしなければなりません。では、なんのために預かったのでしょうか。

答えて、「社会に役立てるため」であることは明白です。ですから、人は社会に役立つために体を鍛え、学び、逞しく成長しなければなりません。

卒業式・入学式に参列して頼もしく洗刷とした皆さんに接し、次代を担う人材が雲南市のために役立とうと思ってくれるように、「市民が主役のまちづくり」を実践して見せることがなにより大切だと改めて強く思った次第です。

(雲南市長 速水雄一)